

# 平成29年度 宇都宮大学 全学FDの日

1. 日 時 平成29年9月27日（水）9時から
2. 場 所 大学会館2階 多目的ホール  
（工学部アカデミアホールに映像・音声配信）
3. テーマ 「深い学び」に向けて
4. 日 程  
【表彰】  
9:00 ベストレクチャー賞表彰及びベストレクチャー殿堂表彰  
  
【全学の取組】  
9:35 ベストレクチャー賞受賞者による実践報  
11:30 特別報告「高校におけるアクティブ・ラーニング」  
（質疑応答含む） 皆川純男客員教授  
（教育学部・教職センター客員教授）  
12:00 終了（予定）

（参考）各学部取組：個別FD活動

地域デザイン科学部

コミュニティデザイン学科 【13:00 開始】：学部学科会議室（陽東11号館3階）

建築都市デザイン学科 【14:00 開始】：建築都市デザイン学科会議室（陽東8号館5階）

社会基盤デザイン学科 【14:00 開始】：社会基盤デザイン学科会議室（陽東8号館4階）

国際学部 【14:00 開始】：大会議室（峰町5号館A棟4階）

教育学部 【14:00 開始】：大会議室（峰町8号館A棟2階）

工学部 【13:30 開始】：アカデミアホール（陽東10号館1階）

農学部 【13:00 開始】：峰ヶ丘講堂（峰地区）

## 目 次

第 14 回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿・・・・・・・・・・	1
平成 29 年度「宇都宮大学ベストレクチャー殿堂」受賞者名簿・・・・・・・・	2
第 14 回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項・・・・・・・・・・	3
特別報告「高校におけるアクティブ・ラーニング」・・・・・・・・・・	5
皆川 純男 教育学研究科客員教授	

※第 14 回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者による授業実践の紹介  
資料は別添にてご用意しております。

## 第14回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿

### ○学部推薦

学部等	授業科目名	担当教員名	科目コード	受講者数	回収枚数	平均点	備考
地域デザイン科学部	建築構造力学Ⅱ	中野 達也	R310003	53	47	4.60	全学FDの日における発表者
国際学部	国際関係論	清水 奈名子	K100010	106	97	4.87	全学FDの日における発表者
教育学部	音楽B	平井 李枝	S101630	10	10	5.00	
教育学部	英語科教育法Ia	山野 有紀	S663130	35	30	4.83	全学FDの日における発表者
教育学部	体育a	加藤 謙一 茅野 理子 小宮 秀明 久保 元芳 黒後 洋	S101805	95	85	4.76	
工学部	環境工学 I	横尾 昇剛	T401212	39	35	4.80	全学FDの日における発表者
工学部	生産システム工学	星野 智史	T160030	71	62	4.77	
工学部	電気回路C	平田 光男	T202032	81	63	4.71	
農学部	動物行動学	青山 真人	A000343	37	31	4.85	全学FDの日における発表者
農学部	樹木学	逢沢 峰昭	A007005	41	34	4.85	
農学部	森林基礎生物学		A007016	41	38	4.61	
基盤教育	スポーツと健康	黒後 洋	G265020	50	45	4.78	
基盤教育	新入生セミナー	高山 道代	G133101	13	13	4.77	
基盤教育	ワークショップで学ぶ 「変わりゆく現代社会の中の私たち」	湯本 浩之	G845924	12	12	4.99	
基盤教育	振動の科学	東口 武史	G506334	29	27	4.95	全学FDの日における発表者

### ○学部推薦(自薦又は他薦)

学部等	授業科目名	担当教員名	科目コード	特に優れた特徴等	備考
地域デザイン科学部	社会基盤解析法 I	池田 裕一	R410001	微積分及び質点の力学の基礎事項を理解し、解析的手法及び数値的手法で問題を解くことができることを目的として、講義による説明は最小限に抑えて、学生同士や教員、ティーチングアシスタントとの双方向的演習授業を行っている。その結果、学生が予習に時間を割くようになっただけでなく、他の科目でも適用できたことから汎用性も実証されている。	全学FDの日における発表者
基盤教育	基盤教育英語	阿部 容子 柿谷 命 川田 牧人 佐藤 研仁 蜂須賀 美帆 峯 恵理菜 ローリー バンウェル 佐々木 明子 パイロン ベナー 江川 美知子	G200100 他	「自校教育」「自プログラム教育」をテーマとした『PATHWAYS』『Culture Shock』『ACE』等のオリジナルテキスト作成等、全教員が、学生が真に求める英語教育の在り方を常時追求している。	

平成29年度「宇都宮大学ベストレクチャー殿堂」受賞者

学部	氏名	科目名(受賞回数)	備考
国際学部	清水 奈名子	国際関係論(3)	
教育学部	澤田 匡人	生徒指導・進路指導(中・高校を中心とする)(3)	
地域デザイン科学部	藤原 浩已	コンクリート工学 I (3)	
農学部	蕪山 由己人	生物化学 I (4), 生物化学 II (4)	
農学部	関本 均	植物栄養学(3), 肥料学(3)	
基盤教育センター	江川 美知子	Integrated English II A(3)	

## 「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項

平成 29 年 5 月 24 日 教育企画会議

本学では、基本的な教育理念として「広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践し、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する。」を掲げている。

この教育目標を達成するための一環として、優れた授業を行っている教員にベストレクチャー賞を授与し、併せて、教員相互の授業改善の意識向上に役立てることを意図している。

なお、ベストレクチャー賞は、優れた授業への取組みであることに鑑み、本学における志願者確保等の観点から、その取組内容を広報活動においても活用することとする。

以下に「宇都宮大学ベストレクチャー賞」の選考について必要事項を定める。

1. 本学の専任教員が担当する学士課程の全ての授業科目（以下「科目」という。）を選考対象とし、選考された科目の担当教員に対してベストレクチャー賞を授ける。
  - (1) 当該科目を単一のクラス※1 で開講し複数の教員で担当している場合、その担当教員全員に対して授賞する。
  - (2) 同じ科目で担当教員が 3 回受賞した場合は、「宇都宮大学ベストレクチャー殿堂」とし、翌年度以降はその教員に対して当該科目における再度の授賞はしない。
  - (3) 科目を単一のクラスで開講し複数の教員が担当している場合は、同一教員が 3 回受賞したときに殿堂入りとし、翌年度以降はその教員に対して当該科目における再度の授賞はしない。
  - (4) 科目を複数のクラスで開講している場合は、全クラスをまとめて選考しその担当教員全員に対して又は特定のクラスのみを選考しそのクラスの担当教員全員に対して授賞する。
  - (5) 科目を複数のクラスで開講していて全クラスが受賞した場合は、同一教員が 3 回受賞したときに殿堂入りとし、翌年度以降はその教員に対して当該科目における再度の授賞はしない。
  - (6) 科目を複数のクラスで開講していて一部のクラスが受賞した場合は、同一教員が 3 回受賞したときに殿堂入りとし、翌年度以降はその教員に対して当該科目における再度の授賞はしない。
2. ベストレクチャー賞の授賞科目と授賞者は、教育企画会議において決定する。
3. ベストレクチャー賞受賞者には、「全学 FD の日」において、学長から表彰状及び副賞を授与する。
4. ベストレクチャー賞受賞者の取り組み内容については、他の教員の授業改善の意識向上に役立てることと、さらには広報活動に活用するため、以下の事項について考慮する。
  - (1) 受賞者は授業に対する心構えや取り組み方などをまとめた資料「授業概要」を作成し、「全学 FD の日」において 15 分程度の発表を行う。
  - (2) 「授業概要」を学内職員 Web サイトに公開するとともに、オープンキャンパスの日などに模擬授業を実施する。なお授業形態によって模擬授業の実施が困難な場合には、この限りではない。
  - (3) 全学 FD の日の発表はビデオ収録し、動画配信サイトにて公開する。
5. その他選考に必要な事項は、教育企画会議が別に定める。

以上

※1 ここで「クラス」とは、時間割コードが割り当てられた授業のことを指すこととする。



# 全学FDの日

平成29年9月27日(水)

## 高等学校におけるアクティブ・ラーニング

～生徒(学生)の目が輝く授業のために～

宇都宮大学教育学部 皆川純男

### 略歴

- 1955年 栃木県那須町生まれ
- 1973年 東京での浪人生活
- 1974年 早稲田大学法学部(東京六大学野球の観戦)
- 1978年 黒羽高教諭
- 1983年 黒磯高教諭
- 1994年 大田原高教諭
- 1999年 栃木県総合教育センター(指導主事→副主幹→研修部長補佐)
- 2006年 那須清峰高教頭
- 2008年 県教委総務課主幹(教育政策担当)
- 2010年 矢板東高(全・定併置)・同附属中学校長
- 2013年 大田原女子高・大田原東高(定)校長
- 2015年 宇都宮大学教育学部・教職センター

### 1 高校授業の現状

高校への進学率:98.4%→能力、適性、興味・関心、進路希望等が多様化

(1) 進学校の状況

週32～35時間授業、放課後の課外授業、土曜学習、長期休業中の補講、学習合宿、面接指導、全国模試等 →先生方も生徒も疲労困憊？  
→AL型授業への取組により学力向上を目指す進学校

(2) 教師主導の一方通行型授業が主流

ア 先生は、説明と板書(トークとチャーク)で知識の詰め込み

イ 生徒は、黙って説明を聞いて板書をノートに写す(受け身)

ウ 生徒の学習意欲、集中力がない(居眠り、ぼんやり)

表4-1-1 生徒に関する教員の悩み(学校種別)

	高校教員						専門学科 (%)
	全体	普通科	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	
生徒の学習意欲が低い	80.7	78.3	49.2	76.6	92.9	91.3	89.5
義務教育段階の学習内容が定着していない生徒が多い	79.3	76.2	43.0	72.2	91.7	93.8	87.7
生徒間の学力差が大きくて授業がしにくい	64.9	63.1	45.5	57.6	74.9	77.6	71.4
生徒指導に時間がかかり過ぎる	44.8	40.9	13.8	28.4	59.1	74.4	58.2
生徒が何を考えているのかわからない	40.9	38.0	22.3	33.4	47.2	52.3	45.8

注1) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。選択肢は「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4段階。

注2) 教員の悩みについてたずねた15項目のうち、生徒に関する5項目のみを示した。

注3) 生徒の入学時の学力水準(中学時代の評定平均)が4.5～5.0点の高校(60校)をAグループ、3.5～4.0点の高校(253校)をBグループ、3.0点の高校(138校)をCグループ、1.0～2.5点の高校(83校)をDグループとして示している。

注4) 〇は全体よりも5ポイント以上、△は10ポイント以上高いものを示す。

注5) 〇は全体よりも5ポイント以上、△は10ポイント以上低いものを示す。

注6) 対象は国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語のいずれかを担当している高校教員3,070人。

# 「面倒な授業」になっていませんか？



※「**授業第一主義**」  
 学力向上の原点は「授業」である。教師は日々研鑽に励んで授業力の向上に努め、生徒は予習をして真剣に授業に臨み、必ず復習をする。「授業第一主義」とは、予習→授業→復習という、授業を中心とする学びのサイクルを重んじること。

- ※「**授業革新**」：企業では「技術革新(イノベーション)」、学校では「授業革新」
- ①**授業改革**：一方通行型授業から双方向型授業への転換
    - 「学力の三要素」をバランスよく！
    - ・基礎的な知識及び技能の習得
    - ・思考力・判断力・表現力の育成
    - ・主体的に学習に取り組む態度
  - ②**授業公開**：教員同士が授業を公開して切磋琢磨し、授業力を向上する
  - ③**連携協働**：教科ごと、学年ごとに連携協働し、学校を活性化させる

※学校・教師の役割・使命は、生徒の能力・適性を最大限に引き出し伸ばして、生徒が立派な社会人となる基盤をつくること。

## 高校生居眠り日本最多

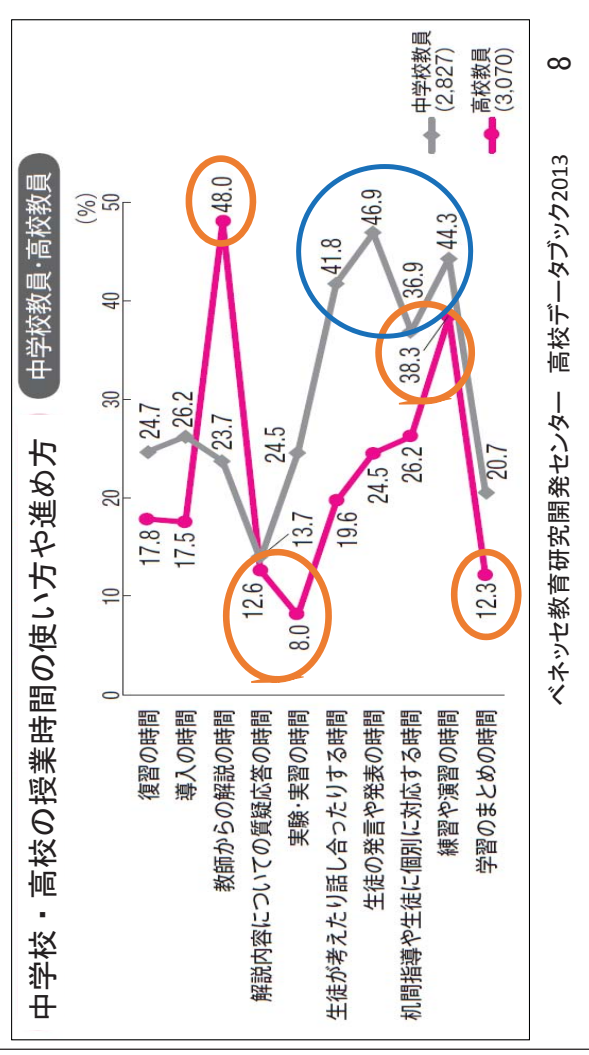
日米中韓調査 受け身の授業つまらない？

2017年(平成29年)3月14日(火曜日) 発表

国	日本	米国	中国	韓国
試験前にまとめて勉強する	69.3	69.0	48.4	56.4
できるだけ自分で勉強する	33.3	61.8	64.9	84.0
平均	24.2	17.7	7.6	9.8
授業中、居眠りする	15.0	3.8	3.3	8.4

日本は居眠り率が高いが、授業が受け身でつまらないと感じる生徒が多い。調査は昨年11月、韓国、中国、米国、日本、米国の高校生を対象に実施された。

「授業が受け身でつまらないから居眠りする生徒が多い」と指摘している。





○平成元(1989)年、文部省が「新しい学力観」を提唱  
 社会の変化に対応できる人間を育てるため、「記憶力中心の知識偏重の教育」から「自ら学ぶ意欲の育成や思考力、判断力の育成に重点を置く教育」への転換。

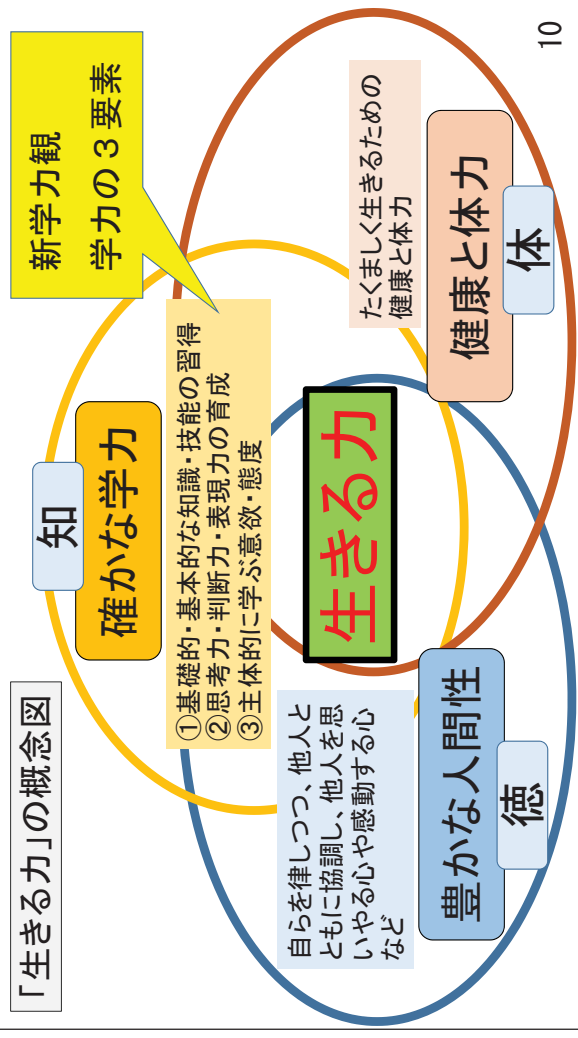
○平成8(1996)年、中教審答申で「生きる力」が登場  
 生きる力とは、いかに社会が変化しようとも、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよき問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する力など、豊かな人間性や、たくましく生きるための健康や体力を備えたもの。

○平成19(2007)年、学校教育法(第30条2項)の改正→「学力の3要素」  
 「…生涯にわたって学習する基礎が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」

○平成28(2016)年、中教審答申で「主体的・対話的で深い学び」(A L)の視点からの授業改善

→ 小中高大をA L型授業へ転換

「生きる力」の概念図



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

※高校では、小・中学校に比べ知識伝達型の授業に留まる傾向があり、**学力の3要素**を踏まえた**指導が浸透していない**。定期テストは、大学入試の出題形式や内容と同じような出題をしている。例えば、レポートの文章が雑拙で漢字の間違いが多く、論理的な文章が書けないといった大学側の指摘。

※進学校は、大学の受験科目を見据えた教育課程を編成  
 地理歴史科では、文系は日本史又は世界史を、理系は地理を履修。私大文系は地理が受験科目にない(早大、慶大、明大など)。日本史または地理を全く履修しない生徒が多い。理科も同様で、物理、化学、生物のいずれかを全く履修しない生徒が多い。



高校の教員は、学習指導要領を読まない？  
学習指導要領が変わっても、高校の授業は変わらない？

それはなぜか？

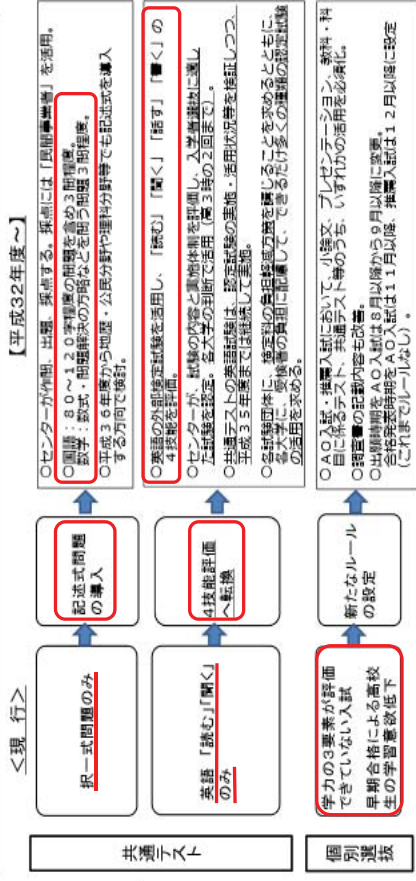
知識の暗記が大学入試(就職試験)で問われるから

大学入試問題が、高校生の勉強スタイル(高校の授業の授業の在り方)を決めていく。

「大学入試(就職試験)が変われば、高校の授業も変わる？」

大学入学者選抜改革

- ◆ 受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
- ◆ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的な学びと協働して学ぶ態度
- ◆ 高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆ 平成32年度「大学入学者共通テスト」開始 ※記述式、英語4技能
- ◆ 平成36年度 新学習指導要領を前提に更に改革



2 A L型授業を推進する上での問題点

(1) 教員側

- ① 教員自身がA L型授業を受けたことがないし、見たこともない。→A Lの手法がわからない。
- ② 教えないと生徒は何にもできないという教員の思い込みがある。
- ③ 教師が説明した方がはやい。授業の進度が遅れる。
- ④ 生徒がグループで話し合ったりして、内容が理解できるのかという不安がある。
- ⑤ A Lで思考力・判断力・表現力を本当に育成できるのだろうか。
- ⑥ もう歳だし、新しいことはできないよ。(ベテラン教師)

(2) 生徒側

- ① 「授業は先生から教えてもらうもの」という固定観念がある。
- ② 生徒もA L型授業に慣れていない。(話し合い、助け合いができない)
- ③ 生徒にとって「話し合いながら学ぶ」ということが特別な行為となっている。

※A Lの目的や背景をよく理解して前へ進む学校(教員)と、そうでない学校(教員)との格差(学校間格差、校内格差、教員間格差)

ア A Lの趣旨を理解して積極的に取り組み成果をあげている教員

イ A Lの趣旨を理解して取り組んでいるものの、まだ成果があがっていない教員

ウ A Lの趣旨を理解しているものの、その実践の仕方がわからない教員

エ A Lの趣旨を理解できず(しようとせず)、授業が変わらない教員(否定派、無関心派)

※「主体的・対話的で深い学び」をいかに実現するか？

- 【主体的学び】
- 【対話的学び】
- 【深い学び】

※教員、生徒(学生)の意識を変え、授業を変えるのはなかなか難しい！

### 3 「子どもと教育」探究講座の授業

- (1) 「理論と実践の往還」を目指した年間計画を作成  
授業のはじめに**授業目標**を提示し、**最後に振り返り**をす。  
授業を2つ又は3つのブロックに分けて**授業予ザイン**する。
- (2) **インプット**→**インテイク**→**アウトプット**の**展開**(講義+AL)を作る。(学生の集中力を高める)
  - ①教師が**アウトプット**を予告する。
  - ②学生は**インテイク**(摂取、取り入れ)状態になる。(自分事として受け入れる)  
→脳が活性化 例:謝辞を言う人は講演をマジで聴く。
  - ③学生は**インプット**した後、それを再構成して**アウトプット**する  
(自分の言葉で考えたり、書いたり、発表したりする)※まず一人で考える →ペア(グループ)で意見交換 → 全体で共有
- (3) **リフレクションシート**: 学習評価、成績評価 A～Cの段階評価  
「本時で印象に残ったこと、気づいたこと、授業の進め方等について、3つ以上、5行以上記述する」 ※授業を重ねていくと、記述力(量も質も)が向上!

17

### (4) 授業に対する学生のコメント

#### ○肯定的意見

- 1 ALを取り入れた、とても活動的で楽しい内容になっている。
- 2 パワーポイントの画像をプリントして配付し、その資料に沿って授業を進めていく中で、DVDを見たり、小テストをしたりして先生がいろいろ工夫して授業を行っている感じが伝わってきます。
- 3 授業ごとに、資料やリフレクションカード、アンケートなどが配付され、その量が多かかさばりますが、内容はとてもわかりやすく作られている。
- 4 ALはよい。ゲストティーチャーから貴重なお話を聞けるが、パワーポイントと淡々と話をされると、1時間半が長く感じる。ALのよさを改めて感じた。

#### ○改善意見

- 1 ALで知らない人と話すこともよいが、知っている人と深く議論もしたい。
- 2 一人で考える時間をもう少し長くしてほしい。
- 3 進み方が速く、ALも多用されているので、流れについていくだけで大変なことがある。進めるペースを考えてほしい。

18

### 学生による授業評価

- 5 シラバスの内容・目的と合致していた。 4.43
- 6 授業のねらい、組み立て(導入、展開等)は適切であった。 4.41
- 7 授業の進み具合・分量は適切であった。 4.41
- 8 教員は授業内容が理解できるよう配慮・工夫していた。 4.45
- 9 教科書、資料、黒板、視聴覚機器等の使用は適切だった。 4.42
- 10 4～8を総合的に判断し、この授業は有意義であった。 4.33

19

### (5) 今後の授業改善に向けて

ア 「見知らぬ他者と円滑なコミュニケーションができる」を目標に!

他者に対して、いかに自分の考えや学びを分かりやすく説明できるか。

イ ALが学生の認知面においてどのような役割を果たしているのかということとは十分明らかになっていない。「深い学び」になっているか?

AL型授業により、「**授業中の居眠りなし**」

ウ 「学修」になっているか? 事前学習のないALでは、学びの深化は難しい。

エ AL型授業ができる学習環境の整備

階段式・固定机の制約、ICT(タブレット、リコー等)、ミニホワイトボード、

授業の学生アシスタント 等

#### ※結びに

宇大は、**地域貢献度が全国大学のトップレベルの実力!**

**その魅力を栃木県内の高校生、保護者、教員にもっとアピールしては・・・**

20